



今回のこの欄に登場するのは、あなたかも？  
身近なニュース、まちの話題などをお知らせください  
市情報政策課広報係 ☎22-1411 (内線431)



▲ 2004アートフェスタ勝負市での1コマ、手前が畳パズル、奥が畳オセロゲーム



▲ 畳パズルを持つ清水さん

## 「畳パズルで、日本の文化に触れる」

私は、18歳のときに畳職人の仕事を始めて、今年で27年になります。最近の住宅では、洋式化が進んだためか、床に畳が使われる機会もめっきり減ってしまいました。そういったなかで、3年ほど前に、「もっと多くの人に、畳に関心をもち、親しんでもらえる方法はないだろうか。」と思ったことが、畳を使ったゲームを作ったきっかけです。

畳パズルは、友人からプレゼントされた木製パズルをヒントに、2年前に作りました。畳パズルは、その名の通り、すべて本物の畳と同じ材料で作っています。一つひとつのピースは形が複雑なため、12ピースで一組のパズルの製作には、約1か月半を要します。

清水 豊さん(京町三丁目)

遊び方は普通のパズルと同じですが、組み合わせは1,000通りもあり、一度完成しても、何度でも挑戦できるのが特徴です。横130cm×縦80cmの大きさがあるため、子どもであれば、上に乗って遊ぶこともできます。また、高齢者など、床に座ることが難しい人でも楽しめるように、テーブル用の小さなパズルも作りました。さらにこのほかに、畳を材料にしたオセロゲームも作りました。

最近では、子ども会や自治会などから依頼があり、パズルやオセロゲームの貸し出しもしています。これからも、こうした畳を使ったゲームを作って、たくさんの人に、手触りや香りなど、畳の持つ心地よさを感じてほしいと思います。

## 「楽しくできる防災訓練—防災運動会—」

自主防災会は、大規模災害が発生したときに、初期消火や住民の避難誘導を行い、地域の被害を最小限にするための組織です。私たち本町一丁目自主防災会も、年に4〜5回、初期消火や救命救急、避難誘導などの訓練を行っています。

彦根市では、自主防災会の育成と強化を目的に、毎年1回、防災運動会が開催されています。今年は9月5日に開催され、消防署南分署の屋外訓練場で、市内の16の自主防災会が参加しました。

防災運動会は、皆さんがイメージする運動会と大きく異なります。例えば、「救出・救護」の競技がありますが、これは5人一組となり、2本の竹と毛布で担架を組み、人を運ぶ速さを競います。

中村繁司さん(本町一丁目)

「初期消火」の競技では、丸く巻かれた2本のホースをつないで、先端に筒先を取り付ける速さを競います。また、初期消火の競技として、水バケツをリレーする競技もあります。

このように、防災運動会の競技は、すべて防災活動に関係のある競技です。参加した自主防災会には日ごろの訓練の成果が問われます。また、この日は、普段あまり会う機会のない、ほかの自主防災会の人との交流の機会でもあります。

今年は、私たちの自治防災会は参加者の団結の力もあって優勝することができました。これからは防災運動会を通じて、地域の防災活動の輪がもっと広がることを願っています。

中村さん ▶



▼ 防災運動会の種目の一つ、水バケツリレー

